

牛久：学校周辺に見る自然

第17号 ひたち野うしく小学校

2018年5月26日発行

＜ 晩春のみずべ公園 ～⑤チョウやガのなかま＞

ひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回は、チョウやガのなかま。



まずは5/17にだけ見られたタテハチョウの仲間、コムラサキ。足は4本しかないように見えますね。花の蜜でなく、樹液や獣糞を吸うのも特徴の一つです。

花のみつでなく、泥水や水鳥の糞を吸うコムラサキ。ストローは2本の長いひも状のものが合わさってできている(左)。



ストローはふだんクルクルと巻いてあるが(左2枚)、吸うときは長く伸ばす(右上)。おすの羽の表は紫色に輝いて見えるが(上2枚)、これは構造色といって、見る角度によっては黒っぽくしか見えない(下2枚)。

チョウのストローは、ただの1本の管ではありません。2本のひものようなものが合わさってできています。このストローを、使わないときはクルクルと巻いていて、吸うときは長く伸ばします。うまくできていますね。皆さんが育てているモンシロチョウもほぼ同じ作りですが、幼虫のアオムシの口はどうなっていますか？ ストローですか？ ストローでは、葉を食べるのはむずかしいでしょうね。あらためて観察してみましょう。コムラサキの不思議なのはもう一つ、おすだけ羽の表が紫色に輝いて見えるのですが、見る角度によっては黒っぽくしか見えません。じつは羽の表面には細かい凸凹があって、光の性質によってそう見えているのです。シャボン玉やCDが虹色に見えるのも同様です。



たくちかいほつ ぞうきばやし かんきょうあつか
 宅地開発や雑木林の手入れがされないなど環境悪化
 で、全国的に少なくなっているアカシジミ(左上)とウラナミア
 カシジミ(右)。襲われたのか、羽の後部が欠けていた(左下)。

2・4組の5/17には、全国的に減少しているア
 カシジミとウラナミアカシジミも見られました。
 後ろ羽の先につき出た部分がありますが、ぱっと見
 るとどちらが前かと思ってしまうこともあります。
 頭を食べられたら終わりですから、これは鳥などの
 天敵から身を守る擬態だと言われています。



シジミチョウのなかま、ルリシジミ(左)と、タテハチョウのなかま、サトキマダラヒカゲ(右)。

みずべ公園ではよく見かける、ルリシジミ(5/15)とサトキマダラヒカゲ(5/17)も見られました。
 ルリシジミはいろいろな花の蜜を吸いますが、サトキマダラヒカゲは樹液によく集まります。



ガの幼虫もいました。左は、3日間とも見ら
 れたヨツボシホソバ。幹にはりついて、何をし
 ていたと思いますか？じつは、幹につく地衣を食べ
 ていたのです。地衣は見た目がコケに似て〇〇ゴケ
 という名前が多いですが、藻とカビがいっしょにな
 ったような生きものです。ムラサキツメクサの花を
 食べる幼虫もいました。こちらはナシケンモン
 で、キャベツやマメなどいろいろな野菜類の葉も食
 べてしまいます。 【理科支援員：宮内】

みき ちい ぼうちゆう
 幹につく地衣を食べるヨツボシホソバ幼虫(左)と、ム
 ラサキツメクサの花を食べるナシケンモン幼虫(右)。